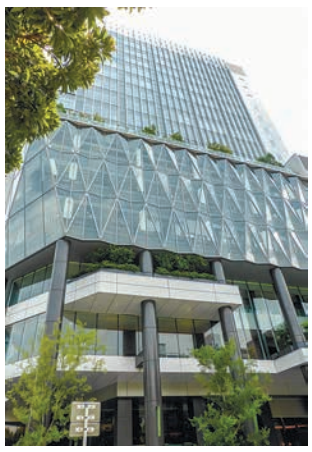
▶第112回定時総会議事録より〈２～３面〉
▶公募〈３面〉
▶関東地区新任教師研修会ガイダンス〈 〃 〉
▶定時総会特別プログラム〈４面〉
▶キリスト教教育者物語〈 〃 〉
▶行事予定〈 〃 〉

キリスト教学校教育 7

2024・2025年度教研テーマ
新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯―いのちの輝きと平和を求めて―

（一社）キリスト教学校教育同盟
〒169―0051
東京都新宿区西早稲田２-３-18
日本キリスト教会館72号室
電　話　03（6233）8225
ＦＡＸ　03（6233）8226
理事長　西原　廉太
編集人　田村　浩一
頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月１回１５日発行）

第112回定時総会
6月7日（金）・8日（土）
学校法人関東学院で開催されました（オンライン併用）


関東学院関内キャンパス

会場の関東学院大学　横浜・関内キャンパス　テンネー記念ホールにて

最上階（17階）から横浜港や球場を臨む

開会挨拶
西原廉太 教育同盟理事長

立教学院は今年、創立150年を迎え、私たちの「建学の精神」である〈普遍的真理を探究し、この世界、社会のために働く者を育てること〉の意味をあらためて確認いたしました。また私は加盟学校法人の周年記念式や研修会などにお招きいただくお恵みを頂戴していますが、その際には必ずその学校の歴史や「建学の精神」を学ばせていただきます。その中で気づかされますのは、私たちの「建学の精神」には共通する2本柱があり、それはまさしく「普遍的なる真理を探究する者」を育て、「この世界、社会、隣人のために働く者たちを育てる」ことにあるということです。

「普遍的なる真理を探究すること」とは、同時に、専門家という権威のもとに語られるものが常に絶対に正しいことはなく、時に、誤り得るのだという事実に徹底して謙虚になることでもあります。そのことに自覚的であり続けながら、「隣人、社会、世界に具体的に奉仕すること」が、学問を修めた者の責任なのであり、そのような者たちを生み育てることこそが、私たちキリスト教学校に共通する「建学の精神」なのです。

私たちの願いとは、私たちキリスト教学校で学んだ児童、生徒、学生たちが、一人ひとりの「人間の尊厳」を大切にし、他者の痛みに敏感に共感し、苦しむ人々、疎外された人々の痛みに寄り添い、癒やす者となってくれることに尽きます。また、私たちの子どもたちも、それぞれに、予想もしない困難な状況や人間関係に躓き、言い知れない孤独感に陥ることも必ずあります。しかし、そんな時に、私たちは、あなたもまた、主から励まされ、導かれている存在であることを思い起こさせたいのです。それこそが、私たちのキリスト教育の大切な意味なのだと思うのです。

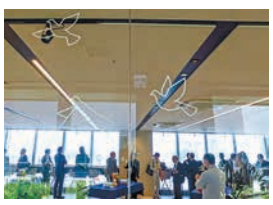
私たちキリスト学校を取り巻く状況には厳しいものがありますが、挫けることなく、共に手を携えあい、互いに祈り、励まし合いながら、共々に精一杯に尊いキリスト教教育を担ってまいりましょう。

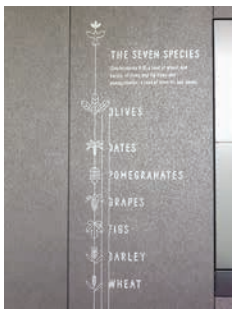
〈キリスト教学校教育同盟理事長・立教大学総長〉

総会会場風景より

テンネー記念ホールでの礼拝・議事

懇親会（昼食）





キャンパスを彩る鳩や様々な聖書の植物のモチーフ

開会礼拝説教
忠実な良い僕（しもべ）
マタイによる福音書25章14～30節
〈「タラントン」のたとえ〉

伊藤多香子

キリスト教学校の礼拝や授業で学ぶことが多いたとえ話です。しかしこのたとえ話を読んだ生徒たちの多くが不満を述べます。なぜでしょう？「不公平」がその理由です。能力を生かして頑張りましょうという叱咤激励のようで鬱陶しいのかもしれません。生徒の気持ちを受けとめつつ、登場する主人は僕たちをよく理解している（から預ける金額が違った）ことを伝えて、この世界の価値観とは異なる価値観、また人間観や世界観について示す「神の国のたとえ話」であるという視点から学びを深めます。この世界の論理で迫ってくる人々に、神の国の真理によって立ち向かった「あのお方」の生き方に注目することも伝えます。

人間は皆、一度限りの人生を生きていて誰かと同じ人生はありません。違いが原因で問題が生じることもありますが、互いに「補い合う」べきです。高校３年生の試験問題に「『リーダー不在の世界』と呼ばれるこれからの時代に必要なリーダーとはどのような存在と考えますか」と出題しました。多くの生徒は「信念を持ち責任ある行動がとれる人」、「人々に伝わる言葉を持つ人」、「世界に対する愛を根底に持つ人」と回答しました。その中で数名が「それはイエス・キリストのような人だ」と書きました。毎朝礼拝で読む聖書の中に、世界のリーダーとなるべき存在が語られていること、その生き方は決して楽ではないこと。しかし困難を乗り越える力と希望を生み出す存在であることを学んでいたのです。

キリスト教学校教育同盟につらなる学校は、イエス・キリストを土台とした教育を実践する学校ですが、みな違いを持ちそれぞれの使命があります。第112回の総会では、これからの時代を生きる児童、生徒、学生たちに必要とされる知恵と力について語り合う中で、どのような教育を進めるべきかを求めて祈りを合わせた後に、それぞれの場にもどられることを期待しております。

〈関東学院 学院宗教主任〉

各地区総会を開催

東北・北海道地区
日時＝5月17日（金）14時30分～15時45分
Ｚｏｏｍによるオンライン開催

関東地区
日時＝5月18日（土）13時～15時
場所＝聖学院中学校・高等学校

関西地区
日時＝5月11日（土）10時30分～16時15分
場所＝桃山学院大学あべのキャンパス

西南地区
日時＝4月19日（金）15時～17時30分
場所＝西南学院百年館

加盟校動静

聖隷学園
長谷川了氏が5月24日付けで学園長に就任。同氏は5月23日付けで理事長を退任、小柳守弘氏が5月24日付けで後任に就任。

草苑学園
創立70周年を迎え、6月15日（土）11時から記念式典がホテルニューオータニで開催された。

夏期研修（全国）　申込期日が近づいています。

7/12締切り
- 第4回教員リフレッシュ研修（合宿）（8/19-21）
- 第4回中小規模学校連携協力懇話会（8/23-24）
- 第57回全国聖書科研究集会（9/13-14）

7/23締切り
- 第10回全国事務局長・事務長会議（9/6－7）

7/26締切り
- 第11回大学新任教員研修会（8/30オンライン）

8/2締切り
- 第4回キリスト教活動担当事務職員研修会（9/11-12）

8/23締切り
- 第68回大学部会研究集会（9/9オンライン）

第112回定時総会議事録より

〔第1日〕6月7日（金）

Ⅰ．受付登録（13時～14時）・Ｚｏｏｍ入室（13時30分～）

Ⅱ．開会礼拝（14時～14時30分）

場所＝関東学院大学横浜・関内キャンパス（２階テンネー記念ホール）

司式・説教＝「忠実な良い僕」伊藤多香子（関東学院 学院宗教主任）

奏楽＝菊池友子（関東学院大学オルガニスト）

Ⅲ．挨拶（14時35分～15時５分）

（１）理事長挨拶

一般社団法人キリスト教学校教育同盟西原廉太理事長より、開会の挨拶が述べられた。（１面別掲）。

（２）会場校挨拶

学校法人関東学院松田和憲学院長より開会の挨拶が述べられた。

Ⅳ．組織（15時５分～15時15分）

（１）出席会員数及びその議決権数の確認（第１日目14時現在）

総会員数＝１０２法人

この議決権の総数＝１６５個

①会場代表者・代理人出席＝55法人　この議決権の総数＝１０２個　②Ｚｏｏｍによる代表者・代理人出席＝11法人　この議決権の総数＝21個

③議長委任＝32法人　この議決権の総数＝38個

④合計　出席会員＝98法人　合計議決権数＝１６１個

＊出席者＝会場出席１２５名、オンライン出席申込者＝22名

以上の事務局報告により、議長委任会員を含め、総会員の議決権の過半数を有する会員が出席していることが確認された。

関東学院・松田和憲学院長の挨拶

（２）総会成立宣言・議長紹介

事務局より、定款第18条に基づき、理事長の西原廉太氏が本総会の議長を務めることが紹介され、議長が開会を宣言した。

（３）議事録作成者指名・議事録署名人推薦

議事録作成者に関東学院大学の吉田和弘氏（大学経営課）、伊東大志氏（政策推進課）が指名され、承認された。

議事録署名人に北星学園理事長・学園長の古川敬康氏、関西学院院長の中道基夫氏が推薦され、選任された。

（４）総会日程案の承認

議長より、定時総会議案書（以下「議案書」と表記）（Ｐ５～８）により総会日程案が説明され、承認された。

（５）報告書委員会付託事項報告

田中義浩総会報告書委員会委員長（関東学院宗教センター事務課長・大学宗教教育センター事務課長）より、議案書（Ｐ81）に基づき報告書精査に関する報告がなされた。

Ⅴ．議事（15時15分～16時25分）

今回、会場出席とＺｏｏｍ出席によるオンライン併用開催の議事に入るにあたり、議長は出席者の音声が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一同に会するのと同様に適時、的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

１．報告事項１

（１）事務局報告

１）加盟校動静に関する報告

事務局より、議案書（Ｐ127～128）に基づき、加盟校の動静に関する報告がなされ、承認された。

２）加盟校人事異動に関する報告

事務局より、議案書（Ｐ129～131）に基づき、加盟校人事異動に関する報告がなされ、承認された。

３）常任理事会・理事会に関する報告

事務局より、議案書（Ｐ13～64）に基づき、常任理事会・理事会に関する報告がなされ、承認された。

４）その他に関する報告

中島昭子助成選考委員会委員長（捜真学院）より公益目的支出計画（助成）につき、議案書（Ｐ69～71、１４４～１５４）に基づき報告、議長より地区協議会報告書及び地区提出議案（特になし）につき報告がなされ、承認された。

（２）監査報告

大川義常任監事（共愛学園）より、議案書（Ｐ83～84）に基づき２０２３年度事業及び計算書類について監査を実施したことと、監査結果の報告がなされ、一同異議なく承認された。

２．審議１

（１）（議案１）２０２３年度事業報告の承認

事務局より議案書（Ｐ65～71）に基づき本部事業報告、山本与志春教育研究委員会担当理事（青山学院）より議案書（Ｐ72～78）に基づき教育研究委員会報告、湯口隆司広報委員会担当理事（活水学院）より議案書（Ｐ79～80、１４３）に基づき広報委員会事業報告がなされ、異議なく承認された。

（２）（議案２）２０２３年度計算書類の承認

坂田雅雄会計担当理事（横浜共立学園）より、議案書（Ｐ85～１１０）に基づき、２０２３年度決算について説明が行われ、会場に諮り、異議なく承認された。

（３）（議案３）理事・監事の選任

事務局より、理事・監事の選任について説明がなされた。任期満了に伴い、以下の理事・監事候補者が、６月７日の第２回常任理事会及び第２回理事会での承認を経て議案３として上程された。

理事（20名）

１．東北・北海道地区

大西晴樹（東北学院）

古川敬康（北星学園）

２．関東地区

山本与志春（青山学院）

鵜殿博喜（明治学院）

堂本陽子（桜美林学園）

西原廉太（立教学院）

山口　博（聖学院）

安藤理恵子（玉川聖学院）

松田和憲（関東学院）

中島昭子（捜真学院）

嶋田順好（横浜英和学院）

坂田雅雄（横浜共立学園）

３．関西地区

小室尚子（金城学院）

八田英二（同志社）

磯　晴久（桃山学院）

中道基夫（関西学院）

飯　謙（神戸女学院）

４．西南地区

樋口紀子（梅光学院）

増田　賜（折尾愛真学園）

湯口隆司（活水学院）

監事（２名）

大川　義（共愛学園）

福島基輝（遺愛学院）

右記の候補者一覧がスクリーン画面に示され、議長は一括審議の同意を得た。

会場出席者は挙手を、オンライン出席の議決権者にはチャットの記入による賛否を求め、議場に諮り、議案３について異議なく承認された。選任された出席理事は本決議内容を異議なく承諾した。

（４）その他必要な事項

特になし。

以上をもって、定時総会第１日目の議事が終了した。

写真撮影

（16時25分～16時30分）

テンネー記念ホールにて会場出席者の撮影。

総会１日目の終了後、選任された理事・監事により第３回理事会及び第３回常任理事会を開催した。

〔第2日〕6月8日（土）

Ⅵ．受付・Ｚｏｏｍ入室（９時30分～10時）

Ⅶ．礼拝（10時～10時20分）

場所＝テンネー記念ホール

司式・説教＝「神の僕として働く」石渡浩司（関東学院大学宗教主任）

奏楽＝菊池友子（関東学院大学オルガニスト）

組織（10時20分～10時25分）

事務局より、定時総会第２日目の再開が告げられ、議長は引き続き理事長の西原廉太氏があたることが確認された。

出席会員数及びその議決権数の確認（第２日目10時現在）

総会員数＝１０２法人

この議決権の総数＝１６５個

①会場代表者・代理人出席＝57法人　この議決権の総数＝１０３個　②Ｚｏｏｍによる代表者・代理人出席＝11法人　この議決権の総数＝14個

③議長委任＝30法人　この議決権の総数＝36個

④合計　出席会員＝98法人　合計議決権数＝１５３個

＊出席者数＝会場出席１３０名、オンライン出席申込者＝17名

以上のとおり、議長委任会員も含め、総会員の議決権の過半数を有する会員が出席していることが確認された。

２日目議事に先立ち、１日目の議事終了後に開催された第３回理事会において理事長、及び総務理事・会計理事を含む常任理事並びに常任監事が選定され、続いて開催された第３回常任理事会において委員会・地区協議会の担当理事が選定された結果が、スクリーン表示並びにＺｏｏｍ画面共有により、理事長から報告された。理事長・理事・監事は一覧の通りである（右の一覧参照）。

※今回選任の理事・監事の任期は２０２６年６月の定時総会まで。

Ⅷ．議事（10時25分～12時35分）

１．報告事項２

（１）２０２４年度事業計画の報告

担当委員及び事務局より、議案書（Ｐ１１１～１１７）に基づき以下の項目について報告がなされた。

〈説明項目〉

・常任理事会

・理事会

・第１１２回定時総会

・第66回学校代表者協議会

・新規継続事業

◇全国災害支援連絡会議

吉田太郎氏（東洋英和女学院）より報告。

◇中小規模学校法人連携協力検討プロジェクト

湯口隆司氏（活水学院）より報告。

◇学内教職員研修会講師派遣制度

福島基輝氏（遺愛学院）より報告。

◇教育者支援ネットワーク推進

長谷川洋一氏（大阪女学院）より報告。

◇クラウドストレージ管理委員会

伊藤悟氏（青山学院）より報告。

◇教育同盟百年史編纂史資料整理／キリスト教学校教育同盟史研究プロジェクト

事務局より史資料整理と活用、新プロジェクトについて説明・報告

・キリスト教学校教育懇談会

・出版・印刷物関係

・キリスト教学校教職員就職支援

・公益目的支出計画（省略）

以上、報告・説明の後、異議なく了承された。

（２）２０２４年度教育研究委員会事業計画の報告

山本与志春教育研究委員会担当理事（青山学院）、吉田太郎氏（東洋英和女学院）、平松譲二氏（同志社）、星野薫氏（フェリス女学院）、伊藤悟氏（青山学院）および事務局により、議案書（Ｐ１１８～１２３）に基づき、２０２４年度教育研究事業計画に関する報告がなされた。また、特に２０２４～25年度の教育研究委員会教育研究テーマの主旨について説明があった。以上、報告・説明の後、異議なく了承された。

（３）２０２４年度広報委員会事業計画の報告

湯口隆司広報委員会担当理事（活水学院）より、議案書（Ｐ１２４）に基づき２０２４年度広報委員会事業計画に関する報告がなされ、異議なく承認された。

（４）２０２４年度予算の報告

坂田雅雄会計担当理事

（３面につづく）

会場隣の休憩スペースは大きな窓の明るい空間

山本教研担当理事より報告

理事長・理事・監事一覧

一般社団法人キリスト教学校教育同盟

第112回定時総会報告（2024年６月８日）

任期２年間、2024年定時総会～2026年定時総会、

（理事長１名・常任理事11名・理事８名・常任監事１名・監事１名、合計22名）

理事長	西原　廉太	（立教学院）	
常任理事	嶋田　順好	（横浜英和学院）	総務理事
常任理事	坂田　雅雄	（横浜共立学園）	会計理事
常任理事	鵜殿　博喜	（明治学院）	会計理事
常任理事	山本与志春	（青山学院）	教育研究委員会担当理事
常任理事	湯口　隆司	（活水学院）	広報委員会担当理事
常任理事	松田　和憲	（関東学院）	国際交流担当理事
常任理事	飯　謙	（神戸女学院）	キリスト教学校教育懇談会担当理事
常任理事	大西　晴樹	（東北学院）	東北・北海道地区代表理事
常任理事	中島　昭子	（捜真学院）	関東地区代表理事
常任理事	中道　基夫	（関西学院）	関西地区代表理事
常任理事	樋口　紀子	（梅光学院）	西南地区代表理事
理事	古川　敬康	（北星学園）	
理事	堂本　陽子	（桜美林学園）	
理事	山口　博	（聖学院）	
理事	安藤理恵子	（玉川聖学院）	
理事	小室　尚子	（金城学院）	
理事	八田　英二	（同志社）	
理事	磯　晴久	（桃山学院）	
理事	増田　賜	（折尾愛真学園）	
常任監事	大川　義	（共愛学園）	
監事	福島　基輝	（遺愛学院）	

以上

（2面よりつづく）

より、議案書（P125～126）に基づき2024年度予算について報告がなされ、異議なく承認された。

（5）その他

特になし。

発題

「次世代育成―ウェスレー財団の取り組み」（11時50分～12時30分）

講演者＝小海光（公益財団法人ウェスレー財団代表理事）

発題後、小山嚴也氏（関東学院大学学長）から挨拶が述べられた。

Ⅸ．昼食・懇親・校舎見学等（12時50分～13時40分）

小山嚴也氏

高井啓介氏（関東学院大学宗教主事）による食前感謝祈祷が行われた。

Ⅹ．特別プログラム（13時55分～16時35分）

場所＝テンネー記念ホール

講演Ⅰ「教育機関としての防災・減災・復興への備え」（13時55分～15時5分）

高井啓介氏

懇親会は5年ぶりに開催

講演者＝規矩大義（関東学院理事長、関東学院大学理工学部教授）

講演Ⅱ「関東学院における『奉仕教育』の歴史的変遷―校訓『人になれ奉仕せよ』の具現化を目指して」（15時20分～16時35分）

講演者＝松田和憲（関東学院学院長）

Ⅺ．閉会（16時35分～16時45分）

1．次回会場校挨拶

2025年度総会会場となる北星学園より、古川敬康理事長・学園長が挨拶を述べられた。（次回定時総会は2025年6月13日（金）・14日（土）、学校法人北星学園で開催の予定。）

古川敬康氏

2．感謝のことば

キリスト教学校教育同盟を代表し、大西晴樹常任理事（東北学院院長・東北学院大学学長）より、会場校に対し感謝のことばが述べられた。

3．閉会祈祷

伊藤多香子氏（関東学院 学院宗教主任）の閉会祈祷が行われた。

4．閉会宣言

議長より閉会の挨拶が述べられ、2024年度第112回総会が閉会した。

大西晴樹理事より関東学院への謝辞

発題

ウェスレー財団 次世代の育成への取り組み

公益財団法人ウェスレー財団 代表理事　小海　光

東京の南青山にあるウエスレー財団は、キリストの愛の教えとその実践を広く日本、アジア、世界で行うために2010年より活動している公益財団法人です。その歴史は150年以上前に遡ります。当時、日本に派遣され、各地で教育と社会福祉向上のために働いていた宣教師たちを支えるために、北米教会から多くの献金と熱い祈りが捧げられてきました。2000年に入り、宣教師たちのレガシーを覚えつつ新しい時代のミッションを行うために、捧げられた賜物をより広く公益活動を通して用いていくことになりました。

小海光氏

ウェスレー財団は、国内・国際研修、サービスワークキャンプなどをはじめ、活動・学費助成金、インターンシッププログラム、国際協働プロジェクトなどを行っています。これらの活動を通して、ウェスレー財団が目指すミッションは、「社会課題解決のために貢献する、次世代のグローバルリーダーの育成」です。

キリスト教学校教育同盟との協力の可能性として、研修プログラムをはじめ学費助成金への学生推薦、キリスト教学校高校生の交流会への参加（2024年9月16日）などが挙げられます。今年度は、北星学園とウェスレー財団との協働プロジェクト「学園内高校スクールソーシャルワーカー配置事業」を行っています。学生のケア、教育環境の向上成果が、キリスト教学校教育同盟内で共有されることを大いに期待しています。

北米教会の願いは、学校の継続そのものではありません。女子が教育を受けられなかった時代とは違って、女子学生の学習意欲とリーダー性が明らかである時代に、女子学校であるからこそできる教育の意義と目的の再考察、さらに女子学校での女性によるリーダーシップの意義と育成を始め、キリスト教主義学校・団体での次世代のクリスチャン教員・スタッフの育成、150年変わらないガバナンスの見直しなど、新しいミッションの必要性と具体的な可能性を探る時期であると信じます。今こそ、キリスト教団体と学校は、お互いの持つ賜物を持ち合って協働していく必要があるでしょう。そのためにウェスレー財団が協力できることがあれば嬉しい限りです。

2日目朝礼拝説教

神の僕（しもべ）として働く

ルカによる福音書17章7～10節

石渡浩司

先程お読みした主イエスの言葉は、主人である神と僕（奴隷）である人間について語っています。これは、キリスト教学校で働く人の心構えを示している御言葉と受け取ることができます。

神が私たちの主人であり私たちが神の僕であるということは、私たちは主人である神のために働いているということです。その主人とは、私たち人間を尊い存在として大切にしてくださる方であり、イエス・キリストを遣わし十字架につけてまで、人間を愛してくださる方です。それゆえ私たちは、主人である神のために、感謝をもって謙虚な気持ちで、自らに与えられた努めをただただ誠実に果たすだけなのです。

パウロは最初期のキリスト教で傑出した働きをした使徒でした。彼は自分を「キリストの僕（神の僕）」と述べていますが、その彼は他の使徒たちよりもずっと多く働いたと述べています。しかし同時に自分は使徒たちの中で「最も小さい者」であるという自己理解も持っていました。彼は自分の働きがもっぱら神の恵みによるものだと知っており、自分を誇ることなど一切しなかったのです。

彼が創設したコリント教会では党派争いがあり、創設者であるパウロにつく者たちや後継者であるアポロにつく者たちなどに分かれていました。パウロは、自分やアポロは、神が与えてくれた分に応じて仕えただけであることを述べ、教会を成長させてくださった神に目を向けるように諭します。僕として、主人である神のためにただ為すべき務めを誠実に果たしただけであるということです。

キリスト教学校においても創設者をはじめ自校史に名を刻むような方たちがいると思いますが、その人たちの意識では、神の恵みのもと自分は用いられたに過ぎないというものでしょう。私たちも、学校を守り導き成長させてくださっている神に感謝し、自分に与えられた分に応じて、謙虚な姿勢で、為すべき務めを精一杯果たして、学校の前進のために微力ながらも貢献してまいりたいと思います。

〈関東学院大学宗教主任〉

研修報告

関東地区 新任教師研修会 ガイダンス（オンライン）

5月18日（土）午後、オンラインで「関東地区新任教師研修会ガイダンス」を開催しました。新任の先生方にとって、キリスト教学校で働くことの意義を改めて学ぶ機会が必要と考え、2年ぶりに開催し、約70名の先生方が参加しました。

松村誠実行委員長（青山学院横浜英和中高）の開会祈祷・挨拶の後、発題として本山早苗委員（恵泉女学園中高）が、「キリスト教学校の教師になって」というテーマで、キリスト教学校にはクリスチャン、ノンクリスチャン問わず、それぞれが必要とされて、役割があることを話されました。引き続き高橋貞二郎先生（東洋英和女学院副院長）が「キリスト教Q&A」と題し、キリスト教教育に関しての疑問や不安な部分をわかりやすく解説されました。その後、30分程ブレイクアウトルームで分かち合いのときを持ち、最後に伊藤多香子委員（関東学院六浦中高）の閉会祈祷でプログラムを閉じました。

新任の先生方が今抱えている疑問や不安が、少しは解消される機会になったのではないかと思っています。このガイダンスをふまえて、8月に東山荘で新任教師研修会を行う予定です。

松村　誠

〈青山学院横浜英和中学高等学校教頭〉

公募

キリスト教主義高校交流会（チラシ）

▽福岡女学院大学

▼人文学部現代文化学科

職種＝観光学分野　准教授又は講師1名

応募締切＝7月31日

問合せ＝☎092-575-2971

▼人文学部メディア・コミュニケーション学科

職種＝デザイン分野　教授、准教授又は講師1名

応募締切＝8月30日

問合せ＝☎092-575-2971

※採用予定日は特記以外25年4月1日です。

▽北星学園大学

▼社会福祉学部社会福祉学科

職種＝ソーシャルワーク、精神保健福祉分野専任講師又は准教授1名

応募締切＝7月31日

問合せ＝☎011-891-2731

▼人間関係学部子ども発達学科

職種＝①特別支援教育教授、准教授又は講師②音楽に関する領域　常勤講師　各1名

応募締切＝7月17日

問合せ＝☎092-575-2971

▼人間関係学部心理学科

職種＝心理学基礎心理学領域　教授、准教授又は講師　1名

応募締切＝8月2日

問合せ＝☎092-575-2971

▽遺愛女子中学・高等学校

職種＝国語科、情報科専任教諭　各1名

応募締切＝9月30日

問合せ＝☎0138-51-0418

▽新島学園中学校高等学校

職種＝英語科　①専任教諭又は専任講師②非常勤講師　各2名

応募締切＝7月29日

問合せ＝☎027-381-0240

▽女子学院中学校・高等学校

職種＝社会科（公民）専任教諭1名

応募締切＝8月23日

問合せ＝☎03-3263-1711

▽国際基督教大学高等学校

職種＝国語科　専任教諭1名

応募締切＝7月16日

問合せ＝☎0422-33-3401

▽東洋英和女学院中学部高等部

職種＝社会科（地理）専任教諭1名

応募締切＝8月23日

問合せ＝☎03-3583-0696

▽静岡英和女学院中学校・高等学校

職種＝英語科　専任教諭又は常勤講師2名

応募締切＝7月20日

問合せ＝☎054-254-7401

▽関西学院高等部

職種＝英語科　専任教員及びATE　各1名

応募締切＝7月26日

問合せ＝☎0798-51-0975

▽西南学院中学校・高等学校

職種＝数学科　常勤講師1名

応募締切＝9月30日

問合せ＝☎092-841-1317

▽青山学院大学系属浦和ルーテル学院小学校

職種＝小学校全科　常勤講師1名

採用予定日＝10月1日

応募締切＝9月2日

問合せ＝☎048-711-8221

▽聖学院小学校

職種＝小学校全科　特任教員1名

応募締切＝7月31日

問合せ＝☎03-3917-1555

▽青山学院中等部

職種＝パートタイム職員（施設担当）1名

採用予定日＝9月1日

応募締切＝7月18日

問合せ＝☎03-3407-7463

▽（学）聖隷学園

職種＝専任事務職員3名

採用予定日＝11月1日

（勤務中の方は応相談）

応募締切＝8月23日

問合せ＝☎053-436-5311

定時総会特別プログラム

講演Ⅰ　教育機関としての防災・減災・復興への備え

学校法人関東学院理事長
関東学院大学理工学部教授　規矩大義

1月1日16時10分、能登半島付近を震源とする大地震が発生しました。震度7の揺れに加えて、極短時間で襲来した津波、最大4mにも達する地盤の隆起、土砂災害による道路の寸断やライフラインの途絶、そして大規模火災と、各地各所で甚大な被害が生じました。

1995年の阪神淡路大震災は技術者にとって非常にショッキングであり反省すべきことも多かった大地震でしたが、それ以降、土木構造物や建築物の耐震基準が大きく見直され、更に東日本大震災を受けて都市の耐震化は進んではいるものの、熊本地震、北海道胆振東部地震、そして今回の能登半島地震と、市民生活を直撃する大規模地震は後を絶ちません。特に、首都圏や関西圏と違って、インフラや建物の更新サイクルが早くない地方では、既存の不適格家屋が圧倒的に多く、今回もそうした家屋を中心に甚大な被害が生じました。その多くは子や孫の世代が都会に出てしまい、高齢化・過疎化が進んだ地域です。そうした地域ほど被害は甚大で、復旧や今後の復興の道筋すらまだついていません。

発災から半年、マスコミが取り上げる頻度も減り、国民の興味・関心が薄れていくことが被災地の人々にとって最も恐ろしいことです。そして、それは被災地の人々にとって不幸なだけでなく、今後、発生するであろう南海トラフ巨大地震や首都直下地震、それに留まらず、日本中どこでも発生する地震災害に対して教訓を得て、災害に備えるという機会を見過ごしてしまうことになり、私たち国民にとっても不幸なことだと言えるでしょう。

エンジニアとして、災害に強い構造物を造る、行政が地域の防災体制を整える、というだけでは防ぎ切ることの出来ない高レベル災害にどう対処すべきかと考えたとき、実は国民一人ひとりが、どんな事象が生じ、どんな災害が引き起こされるのかを想像すること、想像できることが最も重要です。全員が揃って行動し全部署が機能することを前提としたマニュアルに従うシステムでは、綻びが生じたときにその働きは停止しかねません。大切なのは、マニュアルを整えて発災時の作業分担を決めることでなく、現場にいる人々が、完全ではなくとも「時系列的にシナリオが描ける」ことです。それによって自分の命が守られ、さらには他者を守る行動ができるのです。

教育現場では、子どもたちの体と心を守ることが第一です。同時に、教職員はどこまで行動制限されるのか。施設・蔵書・教育活動の継続はどうするのか。「何を守らなければならないか」、そして各人が「どういう『目的』で行動するか」を明確にしておいたうえで防災計画を立てる必要があります。危険が迫っているときに「自分で自分の命を守るための行動」をとる必要性についてどのように伝え、意識させるか。教職員の命が守られなければ、子どもたちの命は守れません。

子どもたち・教職員への、日頃の防災教育の反復による意識づけは大切です。

災害が発生したときに準備をしても間に合いません。どんな人であっても、発災前の冷静な時にしか準備することはできない、ということを忘れてはなりません。被害を少なくする防災・減災だけでなく、被災後、どのように復旧・復興していくか、それらも含めた事業継続計画（BCP）も、理想型を求めるのではなく、より現実的で周辺地域や社会の立ち上がりに呼応したBCPを作成する必要があります。そして、これからの地震災害を想像すると、（どの学校も余裕がないことは承知の上ですが、）「教育同盟内で復興バディを予め決めておく」「支援スタッフの派遣や実効性あるボランティアチームの組成」、そして「息の長い支援と相互扶助の精神」が、全国のキリスト教学校同士ならではの協力体制と言えるのではないでしょうか。

たとえ万全と思える準備をしたとしても、必ず地震は発生し、被災する人はいるでしょう。それでも私たちは、誰一人例外なくその災害から、再び立ち上がらなければなりません。想定外の災害で被災したのだから、「その人の未来が多少減じられても仕方がない」のではなく、想定外の被災をしたからこそ、人として、地域として、社会として、希望をもって立ち上がり、それを未来に繋げる必要があると考えますし、教育機関に限ることなく、「そのために我々ができること」を考えていかなければなりません。

講演Ⅱ　関東学院における「奉仕教育」の歴史的変遷

学校法人関東学院
学院長　松田和憲

当初は関東学院全体の奉仕教育を演題に掲げましたが、時間的制約もあり、実際は第二次大戦以降の関東学院大学の「奉仕教育」の歩みについて講演させていただくことをお断りいたします。

明治・大正・昭和と「文部省訓令第十二号」によって呪縛されていた「キリスト教学校」が、敗戦と同時に「訓令第八号」発布によって宗教教育が解禁となり、ミッション・スクール発展とキリスト教ブームが相俟って、新しい時代を迎えました。その後、約半世紀の間、多くの「キリスト教学校」は、日本政府による高度成長・高学歴社会志向の波に乗って、「量」的に発展を遂げることができましたが、他方、マスプロ化、世俗化の流れが顕著となり、「質」的には、建学の精神や教育理念を吟味することが疎かになってしまったと言えるでしょう。

1990年代、「バブル崩壊」で先行き不透明な時代になり、少子化の波が押し寄せ、大学設置基準の大綱化を受けてカリキュラムの再編成が迫られ、自らの大学の教育内容、建学の精神及び教育理念の再吟味が求められましたが、その一連の動きに対して、我が大学では「対岸の火事」との受け止め方が強くありました。当時、関東学院大学はラグビー部の隆盛期で、10年間、早稲田大学と優勝を争い、6回の全国優勝を果たし「ラグビーがある限り、関東は安泰だ」と叫ぶ関係者が少なくありませんでした。しかし残念ながら「ラグビーは永遠ならず」、2007年の不祥事によって生じた喪失感、敗北感は名状しがたいものでありました。その意味で大学は「大きな支柱」を失い、「存続の危機」に直面しましたが、違った見方をすれば、その時こそ「キリスト教学校」としての内実を問い直し、復権を目指すチャンスが到来したと言えるでしょう。事実、少数であっても地道にしかも誠実に、「キリスト教学校」の本来の在り方を回復するために不断の努力を重ねてきた人々がいたことも看過できません。

その後、21世紀初頭、我が大学は様々な点で「キリスト教学校」としての体を成していませんでした。「キリスト教学」必修は5学部のうち工学部2学科のみ、礼拝は週2回行いましたが、参加者は20名足らずで、工夫を凝らしてキリスト教行事を企画しても集まる学生は一握りでした。しかし、その後のチャプレン及び宗教教育センターのスタッフ達の取り組みによって、徐々に体裁が整っていきました。特に文科省の「道徳の教科化」に対する小冊子作成、「キリスト教人間学インスティテュート」立ち上げに向け話し合いを重ねる中で一体感が生まれ、併せてセンターのスタッフ達の協力で、毎回の礼拝に対する学生達の「感想」を週報に掲載することにより、学生たちの礼拝への姿勢が変わり、次第に、礼拝に関心を抱きつつ相当数の学生が参加するようになっていきました。

結論として、関東学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」の具現化としての「キリスト教教育」が目指すのは、「神を礼拝し、他者に奉仕する人」に造り替えられることによって、「礼拝者」として、この世において、神に仕え、他者（隣人）に奉仕する人間を育てることにあると言えるでしょう。息の長い取り組みではありますが、ここに「キリスト教学校」の基本的な在り方が隠されているように思えてなりません。

事務局だより

6月の定時総会は、コロナ対応で3年前から始まったオンライン併用の開催でした。この間Zoom出席の比率は44%→28%→17%と推移してきました。会場の挙手とオンラインのチャットによる決議は、会場校の丁寧な準備と出席者のご協力で円滑に進みました。また、1日目を午後開始とした時程は「概ね適当だった」、また特別プログラムの災害対応及び奉仕教育の講演、次世代育成の発題も「参考になった」とのお声を多くいただきました。後継者育成、学校経営、私学法、生成AI等、課題の学び合いを今夏の研修に期待します。

事務局長

キリスト教教育者物語 ⑩③

神と共なる冒険
湯浅八郎
国際基督教大学

国際基督教大学（ICU）設立が決まった1949年、初代学長に選ばれた湯浅八郎は、その人生の稀有な足跡から新しい大学の明確なビジョンを描くことができました。1890年キリスト者家庭に生まれ育ち、落第の経験を経て受洗、「少年移民」として単独渡米し、開拓農場で働いたのち大学院まで進み、帰国後は文部省在外研究員、京都帝国大教授、同志社大総長を歴任しました。まもなく軍部の圧力により辞職、戦時中は再び米国で平和講演と日本人収容所支援などを続け、日米の線引きの中で苦い経験もした一方、キリスト者として様々な同胞にも支えられました。

神の前に一人ひとりが尊重されることを徹底して追い求め、教育においても、信仰においても、所属や呼称によって個人が分類されることを嫌いました。自分はキリスト者「である」というより「でありたい」のだと語り、ICUには「外人」はいないと言い、キャンパスの「平和記念石」には学長よりも園丁の名前こそ優先されるとしました。新大学を「神と共なる冒険」と表現した湯浅は、大胆にも「万一失敗すれば、私たちは何をもって全人類の友情と世界の平和を実現すればいいのだろうか？」と問いかけます。

退任後も多くの人に慕われて、晩年、こんな言葉を残しました。「生きることは愛すること／愛することは理解すること／理解することは赦すこと／赦すことは赦されること／赦されることは救われること」。現在も人の心に火を灯しています。

〈国際基督教大学牧師〉　北中晶子

写真提供：ICUアーカイブス

<行事予定>　※予定は状況により変更することがあります。

7／20～22	第68回事務職員夏期学校	（山梨県北杜市・清泉寮）
29～31	第11回中堅教員リトリート	（同志社びわこリトリートセンター）
8／1～2	第66回中高研究集会	（西南学院）
7～9	第9回全国災害支援連絡会議	（熊本YMCA・益城町・人吉市他）
19～21	第4回教員リフレッシュ研修（合宿）	（奈良県洞川温泉）
22～23	第14回中堅事務職員リトリート	（同志社大学今出川キャンパス）
23～24	第4回中小規模学校連携協力懇話会	（横浜女学院中学校・高等学校）
30	第11回大学新任教員研修会（オンライン）	
9／6～7	第10回全国事務局長・事務長会議	（同志社大学今出川キャンパス）
9	第68回大学部会研究集会（オンライン）	
11～12	第4回キリスト教活動担当事務職員研修会	（西南学院大学）
13～14	第57回全国聖書科研究集会	（啓明学院中学校・高等学校）
11／1～2	第66回学校代表者協議会（啓明学院）	
9	第10回キリスト教看護教育推進会議	（活水女子大学）